

【ものづくり 人づくり 地域づくり】

## もうすぐみそづくり

今週 1月1回 の注文用紙は、  
・年内に回収します (12/23 ~ 27)。  
・お届けは 1/6月 ~ 1/10金 です。

## その前にまずは



# みそ開き

### やっぱりおいしい手前みそ

### ★手作りみそ用大豆の企画は 1月3回スタート



供給職員もみそ開きを行いました。上手にできました！(12/5)。

年が明ければ毎年恒例の「手作りみそ月間」が始まります。例年、750人の組合員が約2トンの地場産大豆を使ってみそづくりに取り組みます。

その前に…

### 昨年仕込んだみそは開きましたか？

先日、供給担当者も昨年仕込んだみそを開き、今年の出来栄を確認しました。例年に比べて色合い良く、味も「うんまい！」と一同感激！まだ開いていないご家庭は、ぜひ開いて、まずは美味しいお味噌汁で。

## 【年末年始の予定】 ※12/12現在の予定です。

### ●地域での活動・催し●

1/16 木 10時-13時  
**脱原発委員会** (本部)  
「医師・児玉先生との公開学習会」  
★こだま医院 (埼玉県比企郡) 院長  
児玉順一先生をお招きしての公開学習会。  
★社会科教諭の経歴もあり、世界経済や地理的な側面からも、放射能と病気の問題についてお話を伺います (詳細後日)。  
※詳細は本紙 4 ページをご覧ください。

### ●基幹運営・対外関係●

12/20 金 10時-13時  
第7回定例理事会 (本部)  
12/22 (日) 13時-17時  
**緊急福島シンポジウム**  
**「20 mSv/年」は安心安全か？**  
～疑問あり 原子力規制委員会！  
市民・医師。科学者の対論～  
・場所：郡山市男女協同参画センター (さんかくプラザ 2階)  
・住所：福島県郡山市麓町 2-9-1 (JR郡山駅から徒歩 20分)

12/22 (日)、1/16 (木) のご参加申し込みは生協までお願いします。  
050-5511-3926 (本部)

先週加入された、常総生協の新しい仲間をご紹介します！

～こんな理由で加入しました～  
「クッキングキャラバン」に参加して加入しました。

お友達の家での「クッキングキャラバン」に参加したところ、レンコンやキャベツそのものの味や食感がとても良く、野菜だけで満足感が得られる食事が作れることに驚きました。今回作った料理を家族にも食べさせてあげたいと思い加入しました。

(取手市・Kさん)

供給担当まで一声おかけください (担当に会えない場合は注文用紙右下の「ご意見欄」をご活用ください)。

資料と試食を持ってすぐにお伺いします！

# 平成 25 年 大豆栽培状況報告

(常務理事 藤田)

～今年の大豆は島田さんに代わって飯塚さんをお願いしました。～

## 今年の大豆栽培は不作に・・・ 「猛暑」「台風」「気温も下がらず」と、 厳しい年になりました。

10年以上、常総生協の手作りみそ用大豆（タチナガハ）を栽培頂きました島田さんですが、今年（2013年）と来年の2年間はとても忙しく、「どうしても生協用の大豆が作れない。申し訳ない」ということで、お仲間の飯塚さんをご紹介頂きました。

### ■生産者の飯塚光一さん

島田さんのお仲間である飯塚さんは、島田さん宅のすぐ近くにお住まいで、**代々続く農家の長男。飯塚さんで6代目。お米を中心にトマト、人参、小麦、大麦、大豆栽培**を行っています。トマトジュースの原料トマトの契約栽培もしており、「すごく甘くて自信がある。出来たら生協にも分けてあげたいくらいだよ」と飯塚さん。大豆はタチナガハの他に、おなじみ「**やさと納豆**」の小粒大豆も作付け。農協担当者さんも「やさと界限では一番、二番の規模ではないか」とのこと。

### ■栽培方法は今まで通り

飯塚さんはとても気さくな方で、「島田さんにも頼まれたし、頑張るよ」とおっしゃり、常総生協の取り組みについても理解してくれました（栽培方法は初期除草剤1回、夏場の殺虫剤なし、色彩選別なし）。

**今はトマトや人参1つとっても、形や大きさが違うだけで買い取ってもらえない時代。そんな中、多少色が着いた見栄えの悪い大豆だとしても組合員に説明して利用してもらおうことは大変なことだろう。でもそんな生協さんに関われるのもうれしいよ、と飯塚さん。**

ただ、これだけの規模でやっているにも関わらず、飯塚さんのお子さんは誰も跡を継ぐ予定がなく、「自分の代で終わりになるかもしれない」と寂しそうに言っていました。お子さんが3人いるそうですが（まだ独身の息子さん1人、娘さん2人）皆会社員として独立しているそうです。

また、正直な想いとして「生協の栽培方法は守るが、ただ作る立場としては収穫の喜びがあるので出来るだけたくさんの実りを得たい。夏場の殺虫剤を撒くのと、撒かないのでは収穫量に大きく差がでるので、たとえ少量を高く買い取ってもらえたとしても、作り手からすれば少額でもたくさんの収穫がしたいのが本音でもある。**無農薬で栽培して、たくさん収穫出来ればいいが、大豆はそれがなかなか難しい**」と飯塚さん。

今年の天候は大豆の栽培にとって厳しいものでした。夏は猛暑が続き、9月に入るといくつかの台風に襲われました。そして秋口になっても気温が一向に下がらず、**本来なら葉が枯れていなければならぬ10月末の段階でも葉が青々とし実入りも悪く、明らかに不作でした。**



今年、手作りみそ用大豆の生産を引き受けて頂いた飯塚光一さん。



お米も作る飯塚さん。自宅倉庫には、お米の乾燥機が5台ありました。

### 10/21 大豆畑の様子（石岡市大塚地区）



今年も異常気象。気温が下がらず10月下旬になっても葉が青々していました。

今年初めて常総生協用に大豆を作るということで、「出来るだけ良いものを作りたい」と、夏に除草剤を使わない代わりに、シルバーのお手伝いさんに除草をお願いしました。

来年はぜひ「**草取り応援隊**」としてみんなで草取りしましょう。

**反TPP、反グローバルは、まずはローカル（地元）から！**

**常総生協組合員の「手作りみそ運動」20年。**

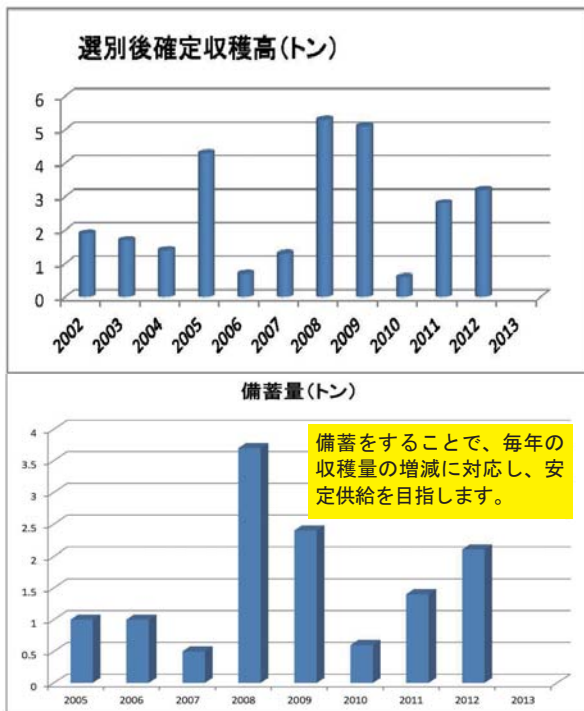
**「地元の大豆を地元の消費者がみそにする。**

**それは地元の畑を自分たちが守ること」**

※手作りみそ用大豆は1月3回より供給開始。みそづくり講習会も各地区で開催（詳細後日）

**常総生協 手作りみそ20年の歴史。  
天候不順による大豆収穫量の激変に対応し、  
安定供給のために、**

**『備蓄』を実施しています！**



**●収穫が天候に左右されやすい大豆**

大豆栽培の契約面積は約4haですが、大豆はその年の天候によっては大きく収穫量が増減します（2008年、2009年のように5トンを超える年もあれば、2010年のようにわずか0.6トンの年も）。

常総生協の「手作りみそ」に必要な大豆は**毎年約2トン**。過去の経験から非常時に備え、2005年より組合員に「基金」を募り、備蓄を行っております（大豆基金）。詳しい収穫量は年明けの選別作業ではつきりしますが今年が極端な不作だったとしても、**今年は昨年備蓄した「24年産大豆」で乗り切れそうです。**

**■ 来年は契約改定の予定**

島田さんに頼まれ、常総生協の取り組みや初期除草1回のみ栽培方法の説明を聞いた際、飯塚さんは（生協には直接お話しはありませんでした）、収穫量もみえないし、コスト、労力的にも厳しいので辞退させて欲しいとお話されていたそうです。毎年作付会議を経るものの、10年以上、島田さんのご厚意に甘える形で価格も変えずに契約を行ってきました。

**今年の最終的な収穫量にもよりますが来年の作付け時には価格も含めて再契約を検討します（来年の4月前後に作付け会議を予定）。**来年は価格変更等あるかもしれません。その際は改めてご報告させていただきます。

**ふろふき大根**

茹でた大根を皿に盛り、味噌たれをかけて完成！お好みで柚子の皮や唐辛子と一緒に！



**常総生協、冬のイチオシ野菜【No.16】三浦大根を「手前みそ」でさらに美味しく！**

**●味噌たれを作る！**

①小鍋に味噌大さじ4、砂糖大さじ3~4（お好みの甘さで）、酒大さじ1、みりん大さじ1を入れよく混ぜたら、弱火にかける。木べらなどで練るように混ぜ、照りが出てきたら出来上がり。

**●大根を茹でる**

①大根は厚めに切り皮をむき、かくし包丁を入れる（1つの面に2mm位十文字に切り込みを入れる）。  
②鍋に①を入れ、かぶる位の水（米のとぎ汁でも良い）を注ぎ15分位茹でて、水を捨ててあく抜きをし、サッと水洗いする。  
③鍋に昆布を敷き②の大根を入れて、多めの水と酒カップ1/2を入れて30分位弱火で煮る。

※大根は茹でたても美味しいですが、一度冷まし、食べる時に温め直して頂くのもおすすめです。熱々をどうぞ。

## 脱原発とくらし見直し委員会（第27回 12/2）報告

脱原発とくらし見直し委員会（第27回）が開催されました。

- 12月2日（月）10～13時 理事長・副理事長・専務・組合員の計13人が参加しました。
- 開催検討中の「映画上映会&島田めぐみさん講演会」（2月か3月）「菅谷昭さん講演会」（1月26日予定）は、引き続き副理事長にて日程調整中です。
- 本日配布資料の説明
  - ・ WHO から発表された報告書「Health risk assessment」（英文。まだ翻訳されたものは出版されていない）
  - ・ 第68回国連総会に提出された UNSCEAR 報告書 A/68/46 の部分和訳（英語原文併記）
  - ・ 11月23日に野田市で行われた報告会の資料。「放射能汚染・被ばく調査からみえてきたこと」（現時点での、常総生協としての正式見解）
  - ・ 東海第二原発差止め訴訟資料「事故が起きた時、半径30km圏内の住民は避難できるか（東海第二編）」
- 今後の委員会活動の方向性について
- 関東ネットからの報告
  - ・ 千葉の椎木議員から「ぜひお母さんたちの代弁をしたい」との要請があり、12/3衆議院復興特別委員会で



の質問事項を、関東ネットの方でまとめ、議員に託した、とのこと。

- 前回募集した、各自治体や個人で食品等測定した放射線測定結果がすこしづつ集まってきています。常総生協に依頼した分は、データが生協にあるので、担当横関さんがまとめて下さることになりました。集まった分の取りまとめ手順、発表の方法については、アイデアを募集しますので、寄せてください。
- 次回は1月16日（木）10時～の予定です。埼玉県比企郡のこだま医院、医院長の児玉順一先生にお越しいただき、公開学習会を行う予定です（下記）。

【公開学習会】第28回脱原発とくらし見直し委員会

1/16（木）、埼玉の内科医、児玉先生をお招きして公開学習会を開催します！

「世界の放射能汚染地域になぜ免疫異常の疾患が多いのか？」

公開学習会

「放射能汚染による活性酸素と免疫疾患」

－世界の放射能汚染と免疫異常の発生の相関－

【講師】こだま医院院長 児玉順一先生

【日時】2014年1月16日（木）10-13時

【場所】生協本部1F会議室

埼玉県比企郡で内科医院を開業されている児玉順一医師が「A LETTER FROM JAPAN」（日本からの手紙）を発表しました。

糖尿病、ベーチェット病、クローン病・潰瘍性大腸炎、多発性硬化症、関節リウマチ、川崎病などの免疫系疾患の多発・・・

低線量放射線による被ばくで体内に発生した活性酸素種が免疫系の疾患をもたらすことを導きの糸に、世界の核実験・再処理工場、原発事故による放

射能汚染と免疫疾患の相関を洗い直しと驚くべき事実が明らかにされる。

福島原発事故から200km離れた埼玉で、住民の生命と健康を守る医師として放射能に向き合い、放射線被ばくが人体に何をもちよるかを研究した渾身の成果をお話しいただきます。

児玉先生は福島事故による放射線の健康影響について憂い、埼玉のお母さんたちのつながりから常総生協の組合員が生協のニュースを先生に送る中で、11月の守谷での甲状腺検診にご一緒頂き、また研究成果をお話し頂けることとなりました。

福島事故後の子どもたちの様子などを含めて、内科医の先生にもいろいろ聞いてみましょう。

